

2022年3月28日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・放送収入

今年度はコロナ禍で落ち込んだ収入が、順調に回復してきたと受け止めている。日本テレビホールディングス連結決算は増収増益になると予想している。スポット収入の回復が原動力となっているほか、全グループを挙げて取り組んだ収支構造の抜本的な見直しが奏功している。

・放送外収入

映画「劇場版名探偵コナン ハロウィンの花嫁」が4月15日に公開する。毎年ゴールデンウイークに大きな興行収入となる恒例アニメーションの為、期待している。

2. 質疑他

Q. バラエティー番組「午前0時の森」について

A. 企画全体を通じて配慮に欠ける発言が繰り返され、視聴者のみなさまに不快感を与えた。その中でアフリカの一部地域の方々への差別表現が使われてしまったこと、生放送中に訂正とお詫びができなかったことを深く反省している。出演者の皆様にもご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っている。

生放送に対する準備不足、および企画のチェックも足りていなかったことを踏まえ生放送にこだわらず、収録して放送することを検討している。今回のことを総括し、企画の方向性を事前にコンプライアンス推進室考查部と共にチェックし、改めて当番組スタッフ全員にコンプライアンス研修を実施する。

Q. 野球中継の新しい取り組みについて

A. 昨シーズン、NPB（日本野球機構）と審判団ご協力のもと、野球中継の歴史上初めて2塁審にカメラを装着いただいたが、今季はさらに1塁・3塁審もカメラを装着し、「全塁審カメラ」が実現した。他にもAI技術を進化させた「AI勝利確率」を導入し、中継をより楽しんでいただけると確信している。今後も最新テクノロジーを駆使した3D映像の演出策など、今までに見たことのない視聴体験をお楽しみいただけるよう、準備を進めている。

Q. 3月からのBS新3チャンネルの放送開始について

A. グループであるBS日テレや弊社にとって、視聴者の時間を奪い合うという点、スポンサーセールスやコンテンツ調達といった点では競合社ではある。しかし一方で新規参入によってBS全体への視聴者の関心が高まり、活性化することで、新たな視聴者層をBSに呼び込めることも期待できると判断している。その上で、弊社やグループ会社の何らかの取引先になる可能性もあり、研究を怠らず、互いに切磋琢磨して、視聴者の皆様に良いコンテンツをお届けできたらと考えている。

(了)

杉山 美邦 代表取締役 社長執行役員
福田 博之 取締役 常務執行役員
沢 桂一 取締役 執行役員